



TSUNAGU

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和6年9月27日

我孫子市小中一貫教育だより

第338号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎさん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にしている子ども



布佐地区キャラクター
「ふるさだ だしお」

Abi-小中一貫教育 共有授業実践の様子を紹介するうな～！

Abi-English「不良品を交換しよう」

湖北台中学校の3年生が、自分の購入した商品が不良品だったときに返品や交換をするには、どのように表現をすればよいか考えました。授業のめあては、場の状況やお互いの感情を考えながらコミュニケーションをとることです。

初めに新出単語の確認と今日のGoal、評価の観点を確認しました。続いて例文を音読し、基本文の確認をしました。小学校で学習した「～したい」「～できる」という表現と、より丁寧に言う場合の表現を振り返りました。

次に、ペアで例文のアレンジに挑戦しました。伝えたい内容がレベル別に6種類提示されており、辞書や端末を活用しながら文章を作成しました。どのペアも熱心に学び合いながら進めている様子が印象的でした。先生からは、端末の翻訳機能を使うのではなく、知っている単語を用いて、同じ意味になるように言い換えるとどうなるか考えるよう指示がありました。文章だけでなく、実際にコミュニケーションする際の留意点を書き込んでいるペアもありました。

最後の発表では、感情を含めて表情豊かにコミュニケーションをとったり、例文で示されたその先を想像し、店員と客とのやり取りを行ったりするペアもありました。小学校からの学びのつながりがしっかりと見える授業でした。



Abi-ふるさと「手賀沼干拓と井上二郎」

布佐小学校の5年生が、地域の方をゲストティーチャーに招いて我孫子の先人「井上二郎」について学びました。

布佐は昔、水害が多く、また土も痩せていたため米作りには適していない土地でしたが、4代当主が布佐の人々の協力を得て開墾に着手し、水田や畑地、住居を広げていったことを知りました。そして、12代当主井上二郎が新田開発に取り組み、大学院で学んだ土木技術の知識を生かし、排水の機械化や土壌の改良を行い、120町歩もの大規模な開墾が成し遂げられたことを教えてもらいました。



井上二郎の生き方を知り、同じ目線で同じ目的に向かう中で、苦勞しても情熱を持ってあきらめないことの大切さや、時代に合わせて変わっていく地域の姿について考えました。

授業後、なぜ布佐という土地を選んだのか、開墾に協力した人々はどういった思いで手伝っていたのだろうなど、新たな興味や関心が生まれ、自分たちが暮らす「布佐」という地域のよさや課題に改めて目を向け、考えを深める授業となりました。